

子供は町会の宝 ~女鳥羽町会の「子供みこし」



● 城東地区 ●
1904世帯
男1829人
女1946人
合計3775人
H26.9.1現在

【子供みこしの歴史】
女鳥羽町会においては、毎年岡宮神社の例大祭に合わせ小学生以下の子供達による「子供みこし」が町内を練り歩くことが、長年の風物詩となつています。

子供みこしの歴史は、昭和51年に女鳥羽町青年会とPTAが協力して「子供みこし」を新設、当初「酒樽みこし」で始めましたが、6年後の57年に「本神輿」を作るべく「みこし委員会」（町会・青年会・PTAの合同会）を結成、町会員の寄付を募り本神輿を作ることとなりました。

【参加者の変遷】
当初、町会の子供の数は30人以上でしたが、年々減少し、ここ数年は10人台に落ち込んでしまいました。我が国において少子化が叫ばれて何年になるか、国を挙げてさまざまな政策と、対策がなされてはいますが、一朝一夕には解決できず減少傾向に歯止めがかかっていないのが現状です。我が町会においても行事を行つてみると、つくづく少子化が進行していると感じます。



女鳥羽町七十五年の歩み

【子供は町会の宝】
町会誌「女鳥羽町七十五年の歩み」にも、その一端が記されており早や40年にならんとしています。

【子供は町会の宝】
町会主催で行われる「敬老会」で子供達は毎年元気よく歌をプレゼントしてくれます。大いに元気をもらっているとお褒め評です。しかし、子供の減少傾向にあることに対し、将来我が町会も消滅してしまふのではないかと危惧する冗談も聞かれる昨今です。残念ながらこの少子化が「子供みこし」という行事の存続にまで影響を及ぼし始めており、伝統ある行事を未来に引き継いでいくことの難しさを大いに感じます。



昭和55年当時



現在

先人が、「子供は町会の宝」との思いで苦勞して作り、子供達への思いがこもった「子供みこし」が復活することを願うばかりです。

今年度も開催！
「子ども安全・安心学校」
8月1日（金）、城東地区子ども会育成会・日赤奉仕団・元町児童館、城東地区福祉ひろば・地域づくりセンター・公民館の共催で、「子ども安全・安心学校」が福祉ひろばで開催されました。夏休みの期間に、子ども達に安全・安心の大切さを学んでもらうことを目的に開催しているもので、約110名の皆さんが参加しました。交通安全教育センターによる寸劇のほか、外の児童遊園には、パトカーと白バイも展示され、子ども達は楽しそうに目を輝かせていました。また、社会福祉協議会の職員や育成会、日赤等の皆さんの指導でハイゼックス（調理用簡易袋）による非常食づくりを体験しました。

今年も開催！
「子ども安全・安心学校」
8月1日（金）、城東地区子ども会育成会・日赤奉仕団・元町児童館、城東地区福祉ひろば・地域づくりセンター・公民館の共催で、「子ども安全・安心学校」が福祉ひろばで開催されました。夏休みの期間に、子ども達に安全・安心の大切さを学んでもらうことを目的に開催しているもので、約110名の皆さんが参加しました。交通安全教育センターによる寸劇のほか、外の児童遊園には、パトカーと白バイも展示され、子ども達は楽しそうに目を輝かせていました。また、社会福祉協議会の職員や育成会、日赤等の皆さんの指導でハイゼックス（調理用簡易袋）による非常食づくりを体験しました。



北上横田の福德稻荷社

勸進証書によると、嘉永6年2月初午に、京都伏見稲荷大社より御神体をお迎えしお祀りした後、明治16年に町のお稲荷様となった。終戦頃までは専任の神職がおり、失せも・尋ね人・行く末の占いなどで評判を得ていた。

荷信仰と結びついている。伏見稲荷神社より御神体をお迎えして、今年は161年目のお位日祭となり、8月3日(日)実施の旨を回覧板で全町会員に周知した。祭の準備は、町内公民館を使用し、年番は稲荷社の清掃幕張り、お供え物、お札等の準備をし、お手伝いの親睦会員は、参道入口より鳥居までのぼり旗を10数本立て、鳥居より社殿まで提灯を30数個吊り下げる作業を行った。社殿の祭壇にはお供え物(山の幸、海の幸、お神酒、果物、お菓子)を三宝に盛り、お札と共に神棚に向かいお供える。

おこなった。宮司の祝詞、お祓いの後、町会長・稲荷社総代の二礼二拍手一礼に合わせ拝礼をし、神事終了、公民館に移動し、宮司さんを交えて御神酒で献杯し、歓談後一時散会とした。年番は後片付けをしながら直会の準備をし、親睦会員は11時に再集合して旗と提灯等の片付けを済ませて直会に参加した。直会は町会長の挨拶、総代のお札に始まり1時間30分程賑わい歓談して終了した。以上が我が町福德稲荷社の三大行事の紹介である。町会員が多数参加で行う行事があることにより町会員相互の絆が自然に深まることと信じ、稲荷社を通じて機会の場の提供が継続されることを希望する。(文責：稲荷社総代 坂井義雄)



戦前は大願成就のお稲荷様といわれ、大変賑やかであつたと伝わっている。今年の福德社の行事は、1月11日(土)の道祖神(三九郎)祭が最初で、子どもが中心となり松飾り・達磨などを集めて燃やし、神を送り、三九郎の火で焼いた繭玉を食べ、1年間無病息災で過ごせるようにと例年同様実施した。

初午祭は、2月11日(火)の祝日(建国記念の日)に行った。2月初めの午の日の行事で全国的に稲

朝8時に岡宮神社の宮司を迎え、参列者には町会長、稲荷社総代、三役、年番、一般参加者10数人にて神事をとり

女鳥羽川随想

征矢野 邦彦



からどうも腰痛が出るようだ。左に北アルプスの山並みを望み、桜橋付近からだてと槍ヶ岳の頂上が常念の左尾根に顔を覗かせて見える。堤防道路から槍の穂先が見えるのは桜橋の一つ北の元女橋あたり迄だ。元町橋をくぐって広い緑地帯へ出ると、座り込んで無心にツツジの根元の草刈をされているSさんが目に入る。「お疲れ様です。」実にSさんの日頃のご努力には頭が下がる思いだ。旭橋を過ぎると前方に草むしりをされるMさんが。障害をお持ちの身体にも係わらず毎日緑地帯の雑草を手で抜き取られてる姿には心を打たれる。曙橋を屈まずにくぐると川床の草木の繁茂が鬱陶しい。昨今の局地的な大雨でも降ればどうなるか、下流の橋桁に被害を及ぼし、ひいては川の氾濫を招きかねない。スポーツ橋を渡って下流に向かってUターン。この頃にはしっぴかり汗ばむ。曙町の北の端から南の端まで長い町会だ。元町橋まで戻ると草刈り機のエンジン音。元町中区

あとがき
今更と眉をひそめる方もいらつしやると思いますが、特殊詐欺被害が今年上半年(1月から6月)268億円と過去最悪になったことをご存じでしょうか？
今日尚、毎日、新聞紙面、テレビ放送で世間をにぎわしております。特に送付型詐欺の増加が目立っておりますので城東地区にお住まいの皆様方におかれましては、隣人等と互いに注意しあいくれぐれもご用心くださいませ。(渡邊)

の皆さん六、七人で川床の草刈りをされていた。町会単位が川床の草木まで刈るのは大変だが行政の出番を待ちきれない。「お疲れ様です。」桜橋を渡りながら対岸の花畑を眺める。手前味噌だが元町南区町会の花ポランティアの毎日の努力の賜物で、見事に綺麗だ。石垣には朝顔、黄花コスモスが咲き、これからは順次コスモスが花開き、赤とんぼが羽を休めるのだ。

